

中国・極超音速滑空ミサイル

川島 順 予科21-7
(越谷市) 航空7-1

インターネット情報によると中国は昨年、極超音速滑空実験機 (Hypersonic Glide Vehicle: コードネーム: WU-14) の実験に成功した。

昨年1月9日、WU-14は大陸間弾道ミサイルの弾頭に搭載され、空中で発射され、その後、滑空してニア・スペース(準宇宙)をマッハ10で飛行したと報じられている。2度目は8月7日に実施したが失敗に終わった。その後3度、4度と実験を行った模様。

WU-14は大陸間弾道ミサイル(ICBM)の弾頭に搭載されて発射され、地表から100km上空の宇宙空間にいる間にミサイルから発射され、音速の10倍のマッハ10というスピードで大気圏に再突入するものと思われている。

マッハ10とは時速1万2千km、通常の巡航ミサイルの最高速度900kmの10

倍以上の速度で、米国の防空システムを容易に突破することが可能とされる。



極超音速滑空ミサイルWU-14

米国のシンクタンク筋によると中国には2つの極超音速機開発計画があり、今回実験されたミサイル弾頭として発射されるポスト・ブースト・ピークル型と、爆撃機などに搭載されるスクラムジェット推進型とがある。

中国は2020年までにWU-14を、2025年までにスクラムジェット推進極超音速機を配備する計画を持っているとのことである。

さらに、中国は2025年までに全地球即時攻撃能力を持つ核兵器の開発を目指しており、その一貫として極超音速巡航機(HCV)の開発研究も開始したといわれている。